



和蘭内外要方
腫瘍
二

ヤ 4
1443
2



74
1443
2



新譯和蘭内外要方卷二

芮^{ロウ}卵^{ロウ}土^ド 英^{ヤン}哥^コ圓^{ユン}南^{ナン}爾^ニ爾^ニ五^ゴ 著

尾張^ビ張^ウ 吉雄尚貞伯元 譯

丹毒第三

問丹毒トハ何ゾヤ答曰コレ皮表ノ細動脈及ビ細
腺中ニ於テ血及ビ其他ノ諸液閉塞シテ一種ノ腫
瘍ヲ發シ以テ其部ノ動作ヲ障碍スルヲ云フナリ
問其證候ハイカン答曰即チ次ノ如シ一曰其腫ル
ト扁ニノ廣シニ曰淺紅ニノ微ク黃色ヲ帶ブ三曰



91-2093

コレヲ撫ルニ熱アリ四曰指ヲ以テコレヲ壓セバ
 其紅色迸散ス五曰其痛ムヲ恰モ針尖ヲ以テ刺ス
 が如キヲ覺ユ六曰其患部間轉移スルヲアリ七曰
 或ハ面部ニ發スル者ニ水泡ヲ誘ヒ起スヲアリコ
 レヲ水泡丹毒和蘭ニルロト云フト名ク八曰毎
 ニ發熱アリ

問此病ト焮腫病ヲ差別スルノ法ハイカン答曰即
 チ次ノ如シ一曰焮腫ハ丹毒ニ比スレバ腫起スル
 一隆シニ曰焮腫ハ深暗赤色丹毒ハ淺紅色ニメ黄
 ヲ帶ブ三曰丹毒ハコレヲ撫循スルニ焮腫ヨリモ
 熱スル一強盛ナリ四曰其痛ム一丹毒ニ在テハ針

尖ニテ刺スガ如キヲ覺エ焮腫ニ在テハ鼓動緊張
 シテ痛三重キガ如キヲ覺ユ五曰丹毒ハ指ニテ壓
 セバ其色迸散ス焮腫ハ然ラズ六曰丹毒ハコレヲ
 按撫スルニ焮腫ニ比スレバ太ダ軟ナリ七曰丹毒
 ハ間患部ヲ轉移スルコトアリ焮腫ハ然ラズ八曰
 丹毒ノ重キ者ハ多クハ水泡ヲ發ス焮腫ニ於テハ
 之ヲ發スルヲ稀ナリ若シ發スル者ハ久シカラズ
 メ火瘡ニ變ズ

問丹毒ノ看法ハイカン答曰其患部ニ因テ論ズル
 寸ハ頭胸腹諸部ニ發スル者ハ手足ニ發スル者ニ
 比スレバ危シニ曰其患へ愈大ナル者ハ愈危シ其

内攻シテ諸藏ニ迫ル者ハ最モ惡候トス三曰内因ヨリ發スル者ハ外因ヨリ發スル者ニ比スレバ愈エ難シ四曰若シ水泡ヲ生ジ發熱及ビ腐爛焦枯等ノ諸證ヲ見ハス者ハ危篤ニ進ムノ候ナリ

問其治法ハイカン答曰一曰良キ攝生法ヲ保持ス二曰發汗劑ヲ用ヒテ皮表諸管細脉中ニ循行スル惡液ヲ發泄セシム三曰外敷劑ヲ擇ンデ其患ヲ消散セシム四曰其兼發スル所ノ諸症ヲ除クヲ要ス

問イカナル攝生法ヲ用フルヤ答曰既ニ燉腫門ニ載スル所ノ法ニ同ジ

問惡液ヲ外泄スルトハイカン答曰次ノ劑ヲ用フ其方

接骨木花糖藏 二錢

發汗鉅石 三分三釐強

洎夫藍末 一分六釐強

右合シ錠トナス

又方

發汗鉅石 三分三釐強

薊塩

洎夫藍末 各一分六釐強

右合シ散トス

又方

臭香糕

六分六釐強

薊鹽

一分六釐強

泊夫藍末

一分

消毒水

四錢

右合シ小飲劑トナス

問此病刺絡シ又ハ腸胃ヲ踈滌スルニ下劑ヲ用フ
ルナキヤ答曰此病ニ刺絡シテ効ヲ取ルナキハ必シ
故ニ古今諸家コレヲ稱スル者少クコレヲ誹ル者
多シ然レモ大便秘閉セバ攻劑ノ下劑ヲ用ヒスシ
テ挿丸子浣腸方或ハ緩カナル下劑ヲ用ヒテコレ

ヲ導ク利益多シ何トナレバ此等ノ諸法身體ヲ
攪擾セザルヲ以テナリ

問外敷ノ劑ハイカン答曰此病ノ治方甚ダ繁雜ニ
シテ患者毎ニ各其治方ヲ異ニスレバ一定シテ論
ジガタシ然レモ大抵船上ニテ應用ノ方ハタトヘ
バ

接骨木

一握

右一味水適宜ヲ以テ煮二百四十錢ヲ取り漉シ
テ渣ヲ去リ燒酒八十錢ヲ加ヘ蒸熨劑トナス
右ノ劑ヲ作り綿布ニ浸シ患部ニ貼ス其寒温ハ病
人ノ意ニ適スベシ或ハ後方ヲ用フルモ亦可ナリ

内小方 卷二 見

其方

白酒

三百廿錢

盆糖霜

二錢

樟腦

三分三釐強

右調勻シ蒸慰劑トナス

又方

里^リ孤^ク西^シ比^ヒ拔^バ爾^ル皮^ビ東^ト蘇^ソ兒^ル

百六十錢

燒酒

三十二錢

盆糖霜

一錢

樟腦

三分三釐強

右同上

又伊^イ斯^ス巴^バ泥^ニ亞^ヤ產石鹼ヲ綿布ニ塗リ貼ス或ハ之ヲ清潔ナル撒絲ニ塗リ或ハ錫板ニ枚ヲ以テ其間ニ石鹼ヲハサミ扁平ナラシメ貼シテ可ナリ或ハ燒酒ヲ以テ綿布或ハ白紙ニ浸シコレニ白堊ヲ摻シ貼スルモ亦可ナリ

問其水泡ヲ發スル者ノ治法ハイカン答曰先ヅ其泡ヲ破リ水ヲ出シテ後燒酒ニ鉛丹ヲ調和シ軟膏ノ如クシ貼シ前ノ蒸慰劑ヲ擇ビ取りテ綿布ニ浸シ之ヲ蓋フ或ハ次ノ方ヲ用フルモ可ナリコレ水泡丹毒的當ノ劑ナリ此方ヲ處女乳羅甸ニ「カヒルギニ」ト云フト名ク其方

密陀僧

廿四錢

酢

三百廿錢

右合シ煮テ半ヲ減ズルニ至テ新汲水四百八十錢ヲ加ヘ再ビ火ニ上セ微ク煮テ火ヨリ下シ上澄ヲ傾ケ取り収メ貯フ此方唯水泡丹毒ノミナラズ其他一切ノ皮膚剝傷ニモ亦効アリ

問若シ前ノ諸劑ニ因テ病勢減ゼズ反テ進ンデ膿瘍トナラントスル者ハイカニスルヤ答曰燉腫ノ膿瘍ニ變ズル者ト治法一般ナリトシルベシ

粘液腫第四

問粘液腫トハ何ゾヤ答曰コレ粘液諸管細腺中ニ閉塞シ以テ他人諸液ヲ逼迫シコレニ因テ一種ノ腫瘍ヲ起シ其部ノ動作ヲ障碍スルヲ云フナリ
問其證候ハイカシ答曰次ノ如シ一曰隆腫二曰皮色微ク常ヲ變メ黯淡色ヲ見ハス三曰コレヲ撫循スルニ冷ナリ四曰指ヲ以テ壓セバ即チ陷リ指ヲ離セバ久ウシテ故ニ復ス五曰疼痛ナク或ハ稀ニ微痛ヲ覺ル者アリ

問治法ハイカシ答曰先ヅ攝生法ヲ保持スルヲ次ノ如クスベシ即チ一曰氣候ハ温暖ナルヲ好トス

二曰飲食ハ船上庖厨ニ於テ良キ者ヲ擇ビ用フベシ
 三曰寤寐ヲ節クス四曰病人少々運動スルヲ得ル者ハ静居スルヨリハ徐々ニ行歩スルヲ宜トス
 五曰尿多ク大便通利節キ者ハ其秘澁スル者ニ比スレバ吉ナリ六曰意識ノ發動ニ於テハ一切ノ忿怒ヲ止メ和樂ヲ求ムルヲ好トス又身體ヲ循行スル粘液ヲ良復シ兼テ之ヲ體外ニ放ツヲ議スベシ

問粘液ヲ良復スルトハイカニスルヤ荅曰煎湯ヲ用フ其方

槐木屑

十六錢

充斯得莫皮

八錢

菝葜根

十二錢

右合シ鍋ニ入レ水九百六十錢ヲ灌ギ火邊ニ安スルヲ十小時或ハ十二小時ニメ後之ヲ煮ルヲ一二小時ニメ甘草根剉ニ細ニスル者ハ八錢ヲ加ヘ煎劑トナス

右ノ劑ヲ漉テ渣ヲ去リ二三杯ヲ温服スルヲ日ニ二三次スベシ

問粘液ヲ體外ニ放ツニ何ノ劑ヲ用ルヤ荅曰次ノ下劑ヲ用フ其方

十全蕩滌糕

二分五釐

藤黄 一分六釐強

肉豆蔻膜油 適宜

右合シ丸藥トナス

又方

紫茉莉根末 六分六釐強

桂皮末 一分六釐強

右合シ散劑トナス

又方

十全蕩滌糕 一分六釐強

紫茉莉脂 各一分

藤黄 各一分

肉豆蔻膜末 八釐三毫強

接骨木花糖藏 一錢

右合シ錠トナス

問外治法ハイカン答曰次ノ蒸熨劑ヲ温メ厚キ綿布ニ浸シ貼ス其方

茵陳草 一握

接骨木花 半握

月桂子 四錢

茴香子

志村人參子 各二錢

白礬 八錢

右合シ水ヲ以テ煮テ百九十二錢ヲ取り焼酒四
十八錢ヲ加ヘ蒸熨劑トナス

又糊劑ヲ用フルモ可ナリ其方

再蒸餅 水煮
軟者

適宜

臭香草

茵陳草

芸香草

苗香子

志村人參子

各末適宜

右藥末ヲ調勻シ再蒸餅ノ煮テ軟ナル者ニ合シ
用フルニ臨ンデ之ヲ温メ綿布ニ包ミ貼ス若シ

其効ヲ逞ウセントナラバ用フルニ臨ンデコレ
ニ焼酒少シヲ摻スルヲ妙トス若シ膿熟セント
スル者ハ其宜シキニ應ジコレヲ披キ療スル
前ノ諸門ニ云ヘルガ如シ後淨掃劑盈肉劑及ビ
乾燥劑等ヲ用ヒテ効ヲ全ウスベシ

硬結腫第五

問硬結腫トハ何ゾヤ答曰コレ諸脉細腺中ニ留滯
スル所ノ粘液ニ含有セル滋潤逆散シ其滓塗凝泣
シテ一箇ノ堅硬ナル腫瘍ヲ發シ其部ノ動作ヲ障
碍スルヲ云フナリ

問其證候ハイカン答曰一曰隆腫二曰皮色變ゼズ
三曰コレヲ撫ルニ冷ナリ四曰指ヲ以テコレヲ壓
セバ其凝結スル所ノ毒動揺セス及テ堅實ナリ五
曰疼痛ナシ

問其看法ハイカン答曰一曰腺多キ處ニ發スル者
ハ肉部ニ發スル者ニ比スレバ治シ難シ且ツ肉部

ニ發スル者ハ危キヲナシ何トナレバ腺ニ發スル
者ハ屢變ジテ蝦腫トナルヲアレバナリ二曰其初
發ニメ尚小ナル者ハコレヲ大ニメ且ツ久シキヲ
經ル者ニ比スレバ融解シ易シ三曰内因ヨリ起リ
或ハ粘液腫ノ滋潤逆散スルヨリ生ズル者ハ打撲
墜下等ヨリ生ズル者ニ比スレバ愈エカタシ四曰
大痛鉸色或ハ青色等ノ諸症ヲ兼ル者ハ殆ンド蝦
腫ト差別アルヲナシ

問其治法ハイカン答曰一曰良キ攝生法ヲ保持ス
二曰體中ヲ循行スル粘液ヲ良復シ且ツ之ヲ外泄
ス三曰外敷ノ諸劑ヲ擇ビ用ヒテ其堅硬ヲ柔軟ニ

ス

問其攝生法ハイカニスルヤ答曰六益ヲ節ニスル
一粘液腫ノ下ニ云ヘルガ如クスベシ

問身體ヲ循行スル所ノ粘液ヲ良復シ且ツ之ヲ外
泄スルニ何ノ劑ヲ用フルヤ答曰其毒ヲ稀薄ニシ
且良復スルニ次ノ劑ヲ用フ其方

蜥蜴石

半錢

消石錠

三分三釐強

右合シ散藥トナス

右ノ劑ヲ取テ病人ヲメ隔日ニコレヲ服セシム或
ハ次ノ丸藥ヲ用フルモ可ナリ其方

安母泥亞吉脂

適宜

右燒酒ニテ溶化シ漉シテ渣ヲ去リ煮テ水氣ヲ
蒸發シ丸トシ毎ニ三分三釐強若ハ半錢ヲ取テ
コレヲ服ス

問其液ヲ體外ニ放ツニ何ノ劑ヲ用フルヤ答曰次
ノ丸藥ヲ用フ此藥唯其液ヲ體外ニ放ツノミナラ
ズ又能ク腫瘍ノ滯塞ヲ分解スルノ効アリ其方

安母泥亞吉脂

瓦兒伴脂

各燒酒ヲ以テ溶化シ漉シテ渣ヲ去
リ火ニ上セ水氣ヲ蒸發シ丸スベキ

ニ至
ル者

二錢

魯布斯丸

一錢

質汗

半錢

苗香油

適宜

右合シ丸藥トス服度ハ三分三釐強ヨリ六分六釐強ニ至ル

問堅硬ヲ柔軟ナラシムルニ何ノ外敷劑ヲ用フルヤ答曰其初起ニ於テハ次ノ劑ヲ用フ其方

蜀葵膏

八錢

杜松油

月桂油

各二錢

右合シ摩擦劑トナス

右ノ劑ヲ患部ニ摩擦スル一日ニ二三回スベシ用

フル毎ニ稍久シク摩シテ其毒ヲ分解スルノ効ヲ逞センヲ要ス然シテ後洎夫藍酢膏粘稠膏青蛙加汞膏等ヲ蠟膏ニ造リコレヲ蓋フ或ハ次ノ方ヲ以テスルモ亦可ナリ其方

青蛙加汞膏

八錢

安母泥亞吉脂

瓦兒伴脂

各以酢溶化者

二錢

杜松油

適宜

右合シ蠟膏トナス

問右ノ劑ニテ効ナキ者ハイカニスルヤ答曰先ヅ酢ヲ煮其蒸氣ヲ以テ患部ヲ罨熨シテ後右ノ摩擦

劑及ビ蠟膏ヲ用フルノ前ノ如クスベシ
 問若シ右ノ劑ヲ用ヒテ効ナキ時ハ熟膿法ヲ用フ
 ルノナキヤ答曰凡テ硬結腫ニ熟膿法ヲ行フナ
 シ何トナレバ此レニ因テ能ク蝦腫ニ變ジ或ハ輕
 者ハ惡性不治ノ潰瘍トナルヲアレバナリ若シ自
 然ニ膿化スル者ハ已ムヲ得ズ他ノ潰瘍ニ倣ヒ
 之ヲ療スベキナリ

蝦腫第六

問蝦腫トハ何ゾヤ答曰コレ酷厲毒ノ滋潤逆散シ
 テ滓逆凝泣セル者諸脉管細腺等ノ中ニ在テ太ダ
 堅硬ニメ疼痛アル腫瘍ヲ發シ以テ其部ノ動作ヲ
 障碍スルヲ云フナリ

問此病ニ區別ナキヤ答曰其別ヲナスノ次ノ如シ
 一曰患部ニ因テ論ズ即チ腺多キ諸部最モ乳房頭
 頸唇舌等ニ發スル者ト諸肉部ニ生ズル者トノ別
 アリ然レ凡肉部ニアルノ太ダ少レナリニ曰大小
 ニ因テ論ズ即チ或ハ扁豆大ノ如ク或ハ(キニクケ
ル)玩器ノ名大ノ如キ者アリコレ其初起ナリ然レ凡久

外科要方 卷二 十一 癰疽 見

キヲ經レバ其大小區別甚シテ一定シ難シ三曰原
因ニ因テ論ズレバ内因外因ノ別アリ四曰證候ニ
因テ論ズレバ其疼痛日夜間斷ナクシテ反テ強盛
ナラザル者アリ或ハコレニ反シテ其疼痛熾盛熱
凡ニ往來發作スル者アリ

問其證候ハイカン答曰凡ソ此病ノ証候ヲ論ズル
者其形狀ニヨレバ甚ダ懸絶ナルヲアリ何者潜伏
ノ者ハ已潰ノ者ニ比スレバ甚ダ異ナルヲアルガ
故ナリ

問潜伏蝦腫ノ証候ハ如何答曰其初起甚ダ小ニメ
或ハ纔ニ扁豆大或ハ(キニクケル)大ノ如クナル者

アリコレヲ撫循スルニ甚ダ堅實ナリ其色少シク
常ヲ變ズ然レ凡久シキヲ經レバ漸ク變ジテ青色
或ハ鉛色ヲ為シ或ハ咬ガ如クメ堪ユベカラザル
ノ疼痛ヲ為ス者アリ多クハ熾盛熱ヲ兼子發ス或
ハ其周圍酷厲液ニヨリテ隆起シ其狀恰モ蝦ノ身
ヲ屈スルニ似タル者アリ

問已潰蝦腫ノ証候ハ如何答曰コレヲ視ルニ驚異
スベキ一種ノ潰瘍ナリ其縁邊頑硬ニメ卷縮シ臭
穢ノ膿汁ヲ流ス其色敗血漿ノ如ク敗血漿ノ一第
七卷潰瘍惣括
管屢破裂シ大ニ出血ヲ為シコレニ續クニ熱ヲ發

門ニ詳
說アリ

内方要方 卷二 見

シテ已マズ且ツ堪ユベカラザルノ熱痛ヲ誘フナ
リ

問蝦腫ノ看法ハ如何答曰患部ニヨリテ論ズル片
ハ肉部ニ發スル者ハ腺多キ部ニ發スル者ニ比ス
レバ善ナリ眼目口舌或ハ大血脉ノ邊ニ發スル者
ハ其人鬼録ニ登ルノ兆トス其大小ニヨリテ論ズ
ル片ハ一切ノ蝦腫其形小ナリト雖凡已ニ潰ユル
ニ至リテハ其禍大ナリ其原因ニヨリテ論ズル片
ハ内因ヨリ起ル者ハ打撲墜下等ノ外因ヨリ起ル
者ニ比スレバ除キ難シ若シ此病疼痛堪ユベカラ
ズ發熱氣力乏弱失氣昏倒等ノ諸症ヲ兼ル者ハ危

篤ニメ救ヒ難シ

問治法ハ如何答曰其六益ヲ保持スルヲ嗽腫門ニ
イヘルガ如クスベシ

問病人惡液多キ者ハコレニ何ノ劑ヲ投ズベキヤ
答曰其循行スル惡液ヲ良復シ且ツ之ヲ外泄スル
ノ劑ヲ用フ

問惡液ヲ良復スルニ何ノ劑ヲ用フルヤ答曰病人
茶ヲ嗜ム者ハ煎茶一二杯ヲ取テ日ニ温服シ兼テ
隔日ニ蝟蛄石末三分三釐強若クハ五分ヲ取り水
一杯ヲ以テ送下ス或ハ日ニ次ノ飲劑ヲ用フルモ
亦可ナリ其方

菝葜根

十二錢

土茯苓根

四錢

鹿角屑

八錢

甘草根

二錢

右水適宜ヲ以テ煮四百八十錢ヲ取り飲服ス
問大便ヨリメ徐々ニ其毒液ヲ下スニ何ノ方ヲ用
フルヤ答曰次ノ劑ヲ用フ其方

十全蕩滌糕

二分六釐強

紫茉莉脂

甘汞丹

各一分

薄荷油

適宜



右合シ丸トス

又方

安母泥亞吉脂

瓦兒伴脂

各燒酒ヲ以テ
熔解スル者

四錢

紫茉莉根末

一錢半

沒藥末

一錢

薄荷油

適宜

右合シ丸トス

右ノ丸藥ヲ擇ビ三四日ヲ隔ル毎ニ三分三釐強ヨ
リ六分六釐強ニ至ルヲ取テ服スベシ

又方

望江南葉

四錢

大黃根

二錢

酒石膜

一錢半

茴香子

五分

右合シ綿布ニ裹ミ麥酒或ハ水二百四十錢ニ浸漬シ日ニ尔莫兒一杯ヲ飲服ス

問外治法ハ如何答曰此病瘞ル者甚ダ少レナリ中ニ就テ已潰ノ者最モ治シ難シ其治法分テ二トス一ヲ保攝法トス已潰ノ者ニ用フニヲ拔毒法トス潜伏ノ者ニ用フ初起其腫猶小ニメ根底深ク達セズ指ヲ以テ壓セバ動搖移轉スル者ニコレヲ行フ

トイヘ氏コレ亦輕忽ニスルヲ得ザルナリ既ニ

依ト加得ニ西洋今時行ハル所ノ醫道ヲ開キシ人

二年皇國ノ孝昭天皇四十四年ニ當テ尼勤西亞國

ニ生ル一四歳ニメ卒ス一説ニ一百九歳ナリ

云フ又按ズルニ明人所著ノ書ニ亞細亞地中海有島百千有リ大者一曰哥阿島義國人盡患疫有者醫名

依ト加得不以下以藥石療之今城内外遍舉大火燒上ノ晝一夜火息而病亦愈矣ト云モノ即チ是レナリ

アポリスメイ名書第六卷第三十八號ニ曰潜伏蝦腫

ヲ患フル者ハ藥セザルヲ良策トス何者コレヲ療

セントスレバ反テ其死ヲ速カニシ療セザレバ命

期ヲ延ルガ故ナリト云ヘリ

問船上ニ於テ已潰蝦腫アルニ遇ハ其外治法ハ

イカニスルヤ答曰患部ヲ洗淨シ且ツ藥ヲ貼シ之

ヲ繙縛スル一日ニ二三度スベシコレニ應用ノ劑
ハ次ノ如シ其方

白礬

白礬的里

各廿二錢

右末トシ合シ罐ニ入レ火ニ上セ燒キテ後冷定
シ再ビ搗キ末トシ硝子器ニ入レ収メ貯ヘ一切
ノ蝦腫及ビ漏瘡惡性ノ者條有本ヲ治スコレヲ用
フル者先ヅ熱湯百六十錢ヲ取り右ノ散藥一七
ヲ調勻シ冷定シテ澄清ヲ取ル之ヲ白礬水ト號
ス羅甸ニア用フル時少シク温メ患部ヲ
洗ヒ且ツコレヲ撒絲ニ浸シ患部ニ貼シ本波本波卑

格斯膏或ハ青蛙加汞膏ヲ以テコレヲ覆フ或ハ
次ノ硬膏ヲ以テ蓋フモ亦可ナリ其方

本波里格斯膏

十六錢

溶化汞

四錢

右合ス

又預防膏ニ溶化汞ヲ加フルモ可ナリ

問舶上ニ於テ溶化汞ヲ製スルノ方ハ如何答曰海
陸共ニコレヲ製スル方次ノ如シ即チ

◆錫或ハ鉛ヲ以テ薄ク板ノ如クニメ世ニ茶ヲ貯
フル小器ヲ製スベキ者十六錢ヲ取り切り細カ
ニシ臼内ニ容レ水銀八錢ヲ加ヘ杵ヲ以テ強ク

研り末ト為ス者ヲ云フ

溶化汞ハ羅甸ニ「アマ」ルガマメリクリスト云フ

按ズルニコレ本草
綱目ノ銀膏ナリ

問其拔毒法ヲ行フニハ何ノ症ニ於テ効アリヤ答
曰一日始メテ蝦腫ノ徵ヲ見ハス者二日腫ルヲ猶
小ニメ其根深カラザル者三日動脈靜脈及ビ神經
等ノ大ナル者ニ近カラザル者四日其腫固着セス
メ移動スル者はナリ以上ノ諸証候ヲ見ハシ且病
人此法ヲ行フヲ請フ者ハ或ハコレニヨリテ功
ヲ全ウスルコトアリ

問其法ヲ行フニ用意スベキコトハ如何答曰病人此
患ヲ截リ除クコトヲ欲スル者ハ即チ拔毒法ヲ行フ

其預メ備フベキ者ハ一日病人ヲ抑留スルニ足ル
ベキ程ノ介者及ビ醫ノ用具ヲ取り與フベキノ介
者二日銳刀三日微ク鈎レル利鍼二莖ニ蠟ヲ塗レ
ル麻絲六條或ハ八條ヲ貫ク者四日撒絲ニ綠礬精
ヲ浸シ乾カシタル者は是レ出血甚シキヲ止ムルガ
為メナリ五日撒絲ヲ雞子白ニ浸シ之ニ止血散ヲ
摻シタル者は是レ瘡口ニ充ツルガ為メナリ六日預
防膏ニテ製セル蠟膏是レ創ヲ掩フガ為ナリ七日
許多ノ按定巾及ビ縛帶其大小形狀ハ患部ニ隨ツ
テコレヲ作ル是レ其藥ヲ貼メ保護スルガ為メナ
リ

問右ノ諸具ヲ備ヘテ後其術ヲ行フノ法ハ如何答
曰先ヅ病人ヲ椅子ノ上ニ在リテ明處ニ向ハシメ
介者ヲシテコレヲ抑留セシノテ後醫左手ノ拇指
ト他ノ諸指トヲ以テ其蝦腫ヲ握リ徐々ニコレヲ
引キ其皮緊張スルニ至リテ鈎鍼ニ糸ヲ貫ケル者
ヲ右手ニ把リ意ヲ用ヒテ腫ノ根脚ノ處ヲ串キ透
シ其糸ヲ引キ出シ鍼ヲ除キ糸ノ兩端ヲ以テ腫上
ニ於テ緩ヤカニ結ビ糸ト皮トノ間ニ一指ヲ容ル
ルバカリヲ餘スヲ要ス次ニ別ナル鍼ヲ把テ腫脚
ヲ串キ透スヲ前ノ如クニメ初メノ糸ト重リテ十
字形ヲ爲シ鍼ヲ除キ腫上ニ於テ緩カニ結ブヲ前

ノ如クス而メ左手ノ指ヲ皮ト糸トノ間ニ入レ強
ク引テ腫ヲメ起リ出サシメ右ノ手ニ刀ヲ把リ其
串ケル糸ノ下ヨリ瘡ノ周圍ヲ截リテ意ヲ用ヒテ
皮ト他ノ部分ト共ニ截斷シテ終ニ其瘡ヲ取り除
クベシ慎ンデ大血脉若クハ神經等ヲ傷ルヲ勿レ
又瘡ヲ截リ除キテ後出血甚シキ者ハ前ニ云ヘル
處ノ綠礬精ヲ浸シ乾カセル撒糸ヲ貼シ次ニ撒糸
ニ雞子白ヲ浸シコレニ止血散ヲ摻シタルヲ貼シ
次ニ撒糸ニテ製セル大ナル微吉ヲ置キ預防膏ヲ
以テ掩ヒ法ノ如クメ繃縛ス若シ面部頭頸等ノ如
キ繃帶ヲ緊縛スルヲ得ザル所ニアリテハ介者

ニ命メ繃縛上ヲ壓シ藥ヲメ能ク附着セシメ出血ヲ止ムルヲ要トスベシ

問此ノ如ク繃縛ヲ施ス者幾時ニメコレヲ換フベキヤ答曰始メ爾ク繃縛ヲ施ス者ハ其出血ヲ止ムルガ為メノミ

問血止リテ後其創ヲ療スルハ如何答曰其創不潔ナル者ハコレヲ掃ヒ盈肉劑乾燥劑等ヲ用ヒ其功ヲ全ウスベキナリ

疔瘡第七

問疔瘡トハ何ゾヤ答曰コレ酷厲ナル粘血皮表ノ腺ニアリテ一種ノ疼痛アル腫瘍ヲ發シ其部ノ動作ヲ障碍スルヲ云フナリ

問其証候ハ如何答曰初起小瘡ヲ發シ稍焮痛シ不日ニ堅硬ニナリ焮痛ヲ益シ其極時ニ至リテ大サ大約鳩卵ノ如キニ至ルナリ

問其看法ハ如何答曰關節或ハ其近傍ニ發スル者ハ肉部ニ發スル者ニ比スレバ治シ難シ會陰ニ發スル者ハ病人起居ニ痛苦ヲ覺ユ此瘡形チ大ナリ

ト雖モ恐懼スルヲ勿レ疫癘傳染ノ毒ニヨラザル

者ハ最モ危カラス何者疫毒ニ由ル者ハ動モスレ
バ變メ疫炭瘡トナルコトアレバナリ此病消散スル
コト少レニノ多クハ潰瘍トナルト知ルベシ但疼痛
熾腫等劇甚ナル者ハ惡候トスルナリ

問治法ハ如何答曰君王膏脂液加脂膏粘稠膏船松
瀝等ヲ撰ビ貼メ其膿ヲ催スヲ要トス或ハ次ノ膏
ヲ用フルモ亦可ナリ其方

松瀝

四錢

瓦兒伴脂

二錢

脂液加脂膏

八錢

右合和シテ硬膏トナス

又方

粘稠膏

脂液加脂膏

各四錢

松瀝

八錢

安母泥平吉脂

二錢

右同上

若シ此瘡疼痛熾腫等劇甚ナル者ハ大麥粥或ハ船
上常用ノ再蒸餅適宜ニ錦葵草ノ末君王膏各適宜
ヲ合シ煮テ糊劑ト為シ綿布ニ塗リ貼シ繃縛ス
問疔瘡已ニ膿熟シテ未ダ破潰セザル者ハイカニ
スルヤ答曰披鍼ヲ以テコレヲ破リ膿汁ヲ壓シ出

ス但コレヲ壓スニ緩カニスルヲ要トスベシ
 問其後イカニスルヤ答曰猶前ノ諸劑ヲ用ヒテ其
 膿汁清潔ニ變ズルヲ俟テ脂液加脂膏燥濕膏或ハ
 椰子膏等ヲ撰ビ貼メコレヲ愈サシムベシ

炭瘡第八

問炭瘡トハ何ゾヤ答曰是レ血中ニアル所ノ酷厲
 液自ラ泌別セラレテ皮及ビ皮下ノ細腺中ニ留滯
 シ一種ノ腫瘍ヲ起シ水泡二三ヲ兼子生ジコレニ
 焮痛ヲ誘ヒ發スル者ヲ謂フナリ

問此症區別ナキヤ答曰有リ即チ善性惡性ノ別アリ
 或ハ死肉アル者アリ或ハコレニ反メ水泡ヲ發
 シ大小數孔ヲ開ク者アリコレニヨリテ一ニコレ
 ヲ子一ゲンオーゴト名ク九眼瘡ノ義ナリ

問炭瘡ノ証候ハ如何答曰其大約ヲ舉ルテ次ノ如
 シ即チ初起大イニ搔痒ヲ發シコレニ續イテ水泡

或ハ死肉ヲ生ズルヲ恰モ通紅セル烙鉄ヲ以テ之
ヲ焦燂スルガ如シ其瘡大小一ナラズ然レドモ必
ズ堅硬ニメコレニ劇盛ナル焮痛ヲ起シ續イテ熱
ヲ發シ或ハ眩暈卒倒等ヲ發スル者アリ疫毒ヨリ
起ル者ニ於テ最モコレアルナリ

問看法ハ如何答曰頭莖腋下鼠竅及ビ關節等ニ發
スル者ハ肉部ニ發スル者ニ比スレバ危シ其形愈
大ナレバ愈危ウク又黒色ヲアラハス者ハ惡性ノ
症トス然レモ小膿瘡或ハ水泡ヲ兼子發スル者ハ
治シ易ク又コレニ劇シキ熱痛發熱若クハ焮痛ヲ
誘ヒ或ハ失氣昏倒ヲ發スル者等皆ナ死地ニ趣ク

ノ兆ナリ

問治法ハ如何答曰一曰善キ攝生法ヲ用フ二曰體
中循行ノ惡性諸液ヲ制スルニ消毒劑及發汗劑ヲ
用ヒテ皮表ノ蒸發氣ヨリメコレヲ外泄ス三曰良
キ外治法ヲ用フ四曰許多ノ兼症アラバ務メテコ
レヲ除クベシ

問其攝生法ハイカニスルヤ答曰既ニ焮腫門ニ論
ズルガ如クスベシ
問發汗消毒等ノ劑トハ何ヲ用フベキヤ答曰温酒
ヲ以テ次ノ散劑ヲ送下ス其方

發汗銆石

二分五釐

昆太蠟越尔巴根

三分三釐強

洎夫藍

一分三釐強

右合和ノ散劑ト為ス

又方

昆太蠟越尔巴根

鹿角屑

各二錢

薊草

半握

右水適宜ヲ以テ煮テ廿四錢ヲ取り滓ヲ去リ

臭香糕

一錢

洎夫藍

一分三釐強

右前藥ニ合和ノ小飲劑ト為ス

右ノ劑ヲ服シテ後温メ覆フテ汗ヲ取ル

問外治法ハ如何答曰此症水泡ヲ兼子發スル者ハ

次ノ糊劑ヲ貼ス其方

再蒸餅

船上用ノ者水ニ煮熟シ用フ

適宜

右錦葵草芸香草高麗菊花芥子ヲ合シ煮テ糊劑

トナス其草類ト花トハ預メ末トシ芥子ハ醋ニ

和シ研ル者ヲ用フベシ

右ノ糊劑ヲ綿布ニ塗り患者ノ堪ユベキ温煖ヲ量

リ患處ニ貼シ五六小時毎ニ更ニ醋少許ヲ加ヘコ

レヲ温メ貼スベシ

問水泡ナクシテ但死肉ヲ見ハス者ハイカニスル

ヤ答曰即チ刀ヲ以テ其死肉ヲ撥開シ知覺アルノ
處若クハ膿汁發出スルノ處ニ至テハ截ルヲ止
メ醃汁ヲ温メ以テ其瘡ヲ洗フ或ハコレニ回青橙
汁ヲ加ヘ或ハ次ノ淋洗劑ヲ用フルモ亦可ナリ但
コレヲ撥開スル者慎ンデ大血脉ヲ傷ルヲ勿ルベ
シ其淋洗劑ノ方

燒酒

廿四錢

陀日多膏

四錢

綠礬精

廿滴

右合和メ淋洗劑ト為ス

右ノ劑ヲ以テ洗フテ後次ノ軟膏ヲ微吉ニ塗リ貼

ス其方

君王膏

八錢

陀日多膏

二錢

底野迦

一錢

右合和シ軟膏ト為ス

右ノ膏ヲ貼シ脂液加脂膏ヲ以テコレヲ罨ヒ前ノ
糊劑ヲ貼シ繃縛ス日々此ノ如クシテ死肉去リ盡
ルニ至ルヲ俟ツベキナリ

問死肉去テ後ハイカニスルヤ答曰右ノ淋洗劑及
ビ軟膏ヲ用ヒテ善性ノ膿汁ヲ見ハサバ糊劑ヲ用
フルヲ止メ其他ハ猶前法ニヨリテ潰瘍清潔ニ

至ルヲ俟テ後治業斯智頻膏ニ没藥末ヲ加ヘ貼メ
新肉ヲ長ゼシム或ハ後方ヲ用フルモ亦可ナリ其
方

尋常篤耨香

八錢

雞子黃

一箇

没藥末

二錢

玫瑰蜜

適宜

右調勻シ軟膏ト為ス

新肉長ジテ後ハ椰子膏燥濕膏本波里格斯膏或ハ
白樟膏等ヲ擇ビ貼メコレヲ愈ス

腺腫第九

問腺腫トハ何ゾヤ答曰是レ酷厲ナル粘血鼠谿腋
下若クハ耳後ノ腺内ニ聚マリテ一種ノ腫瘍ヲ發
スルヲ云フナリ

問此病區別ナキヤ答曰一ニ患部ニヨリテ別アル
一ニ大較ノ章ニイヘルガ如シ即チ前章ニニ大小ニ
於テ別ヲ為ス何者或ハカーツ球博器大ノ如ク或
ハコレヨリ小ナルモアリ或ハコレニ反メ小兒頭
大ノ如ク或ハコレヨリ大ナルモアリ三ニ原因ニ
ヨレバ或ハ惡性ナル傳染毒ヨリ發スル者アリ或
ハ然ラザル者アリ四ニ或ハ劇盛ナル熾盛熱ヲ發

シ大痛焮腫シ眩暈止マズ或ハ心悸等ノ諸症ヲ兼
子發スル者アリ

問其証候ハ如何答曰善性毒ヨリ發スル者ト惡性
毒ヨリ發スル者ト其証候甚ダ異ニノ一概ニ論ジ
ガタシ

問善性毒ヨリ發スル者ノ証候ハ如何答曰其証大
約焮腫病ニ似テタゞ此症ニテハ焮痛發熱多カラ
ザルヲ異トスルノミ

問惡性毒ヨリ發スル者ノ証候ハ如何答曰此症又
二般ノ別アリ即チ傳染毒ヨリ發スル者アリ疫塊
是也羅甸ニ聖ボスチレ又天行惡氣ノ傳染ニヨ
シチヤレト云フ

ラス反テ蠱毒ヨリ起ル者アリ之ヲ名テ便毒ト云
フ有本各其證候ヲ尋子以テ其別ヲ誤マルヲナカ
ルベキナリ

問疫塊ノ証候ハ如何答曰諸ノ送輸管ニ於テ疼痛
アル一種ノ腫瘍ヲ發シ堅實ニメ多クハ焮痛ヲ誘
ヒ少シク皮色ヲ變ジ其腫ノ皮下ニ血液ノ循行ス
ルガ如キヲ覺エコレニ惡性ナル熾盛熱吐逆眩暈
心煩冷汗等ノ諸症ヲ兼子發スルナリ

問便毒ノ証候ハイカン答曰其本條ニ詳ニス就テ
考フベシ

問腺腫ノ治法ハ如何答曰攝生法ヲ守ルヲ焮腫門

ニ論ズルガ如クニシ且ツ體中循行ノ惡液ヲ良復シ傍ラコレヲ外泄セシムルトモ亦焮腫病ニ同ジ此病刺絡ヲ忌ム是レ其血ヲ瀉スルニヨリテ血液ノ運行迅速ニナリ其閉塞セル所ノ腺ヨリ惡液ヲ誘ヒ出シコレニヨリテ腺腫ヲ發セザル以前ヨリハ反テ全身ノ血質ヲシテ腐敗ヲ増サシムタトヘバ世ニ便毒ヲ患フル者一二ノ藥劑ヲ用ヒテ消散シテ後久シカラズシテ全然タル黴毒トナルトアルト其理一般ナリ腺腫ノ膿熟スル者ハ惡性ナル黴毒ノ體外ニ發泄スルノ兆ト知ルベシ都テ腺腫ハ堅硬ヲ柔軟ナラシムルノ諸劑ヲ擇ビ用ヒテ膿

ヲ釀シ次ニ其誘ヒ發スル所ノ諸症ヲ除キ去ルトヲ要スベキナリ

問腺腫ノ外治應用ノ藥劑ハ如何答曰糊劑ヲ貼ス即チ船上常用ノ再蒸餅ヲ水ニテ煮熟シタルヲ取リコレニ錦葵草茵陳草高麗菊花各乾ケル者ヲ末トシ適宜ヲ合和メ糊劑ト爲シ之ヲ温メ綿布ニ塗リ貼シ繃縛ス其寒温ハ患者ノ堪ユベキニ適シテ可ナリ

問右ノ糊劑ニ代ヘ用フベキ者ナキヤ答曰病人膏藥ヲ用フルニ堪ユル者ハ後方ヲ貼ス甚ダ効アリ其方

粘稠膏

泊夫藍醋膏

脂液加脂膏

右合和メ蠟膏ト為ス

右ノ劑ヲ綿布或ハ紅革ニ塗り貼ス

問前ノ劑ヲ用ヒテ功無キ者ハイカニスルヤ答曰

變ジテ潰瘍ニナラントスル者ハ次ノ糊劑ヲ貼メ

膿熟ヲ促スベシ其方

大麥

亞麻仁

右鹹水適宜ヲ以テ煮熟シ次ノ散劑ヲ加フ

各四錢

八錢

一握

十六錢

錦葵草

高麗菊花

君王膏

豚脂

右調和シ糊劑ト為ス

右寒温宜ニ適シ貼ス或ハ後方ヲ用フルモ可ナリ

其方

脂液加脂膏

瓦兒伴脂

君王膏

霸王鞭煎

一握

半握

各八錢

十六錢

八錢

四錢

苡子末

各二錢

右合和シ蠟膏ト為ス

右ノ劑ヲ綿布ニ塗り其腫ノ大サニ隨テ剪リ貼ス
ベシ

問膿熟スル者ハ其全ク熟スルヲ俟テ之ヲ撥開ス
ベキヤ答曰否其腫全ク熟スルニ至ラザル時腐藥
ヲ以テコレヲ破ルベシ

問腐藥ヲ以テコレヲ破ルヨリハ反テ披鍼ヲ以テ
破ルヲ優レリトスルニアラズヤ答曰否何者腐藥
ヲ貼シ死肉トナシテ後披鍼ヲ以テコレヲ破レバ
膿汁泄レ易クシテ挿條ヲ用フルニ及バズ唯披鍼

ヲ以テ開ク者ハ其孔ヲ閉塞セザラシムルガ為メ
ニ己ムヲ得ズシテ挿條ヲ用フレバ膿汁コレニ
沮滯セラレテ近傍ノ諸部ヲ腐蝕シ以テ漏瘡トナ
ルヲアレバナリ

問コレヲ破リテ後ノ治法ハ如何答曰淨掃劑盈肉
劑及ビ乾燥劑等ヲ用フ

問己ニ破リテ膿汁發出シテ後コレヲ收ムルノ法
ハ如何答曰次ノ注射劑ヲ用ヒテコレヲ淨掃ス其
方

白酒

四十八錢

沒藥末

二錢

玫瑰蜜

十六錢

右調勻シ注射劑ト為ス

右ノ劑ヲ用フル毎ニ大約二三注射ニ足ル程ヲ取
リ微温ナラシメ水銃ヲ以テ瘡孔ニ射ギ入レテ後
チ微吉ニ君王膏或ハ治業斯智頻膏ニ赤沉汞丹少
シヲ和シタルヲ塗り貼シ前ニ記セシ糊劑ヲ以テ
重複セル綿布ノ中間ニ容レ温ニ乗ジテ貼シ法ノ
如ク繃縛ス

問其患ノ全ク愈ルニ至ル迄右ノ糊劑ヲ用フベキ
ヤ答曰然ラズ

問其腐肉去リ硬結悉ク軟ラギ瘡孔清潔ニナリテ

後ハイカニスルヤ答曰此時ニ至リテハ唯其糊劑
ヲ止ムルノミナラズ注射劑ヲモ止メ次ノ藥ヲ貼
シテ其口ヲ収ム其方

尋常篤耨香

八錢

雞子黃

一箇

沒藥

鳶尾根

各末一錢

右調勻シ軟膏トナス

又方

治業斯智頻膏

十二錢

沒藥

沙爾古々兒刺

各一錢

右同上

右ノ劑ヲ以テ新肉全ク盈ツルニ至ル

問新肉盈テ後ハイカニスルヤ答曰本波里格^{ボリグ}斯^ス膏

白樟膏燥濕膏赤沉汞丹等ヲ合和シ硬膏トシ貼ス

癰瘡第十

問癰瘡トハ何ゾヤ答曰是レ粘稠液頭頸ノ腺最モ
天突ノ邊ニ留止ノ腫瘍ヲ發シコレニヨリテ其部
ノ動作ヲ障礙スルヲ云フナリ

問其證候ハ如何答曰肺管邊ノ腺硬結シ其大サ一
定ナラズ痛ミナク皮色變ズルヲナシ但蝦腫ニ屬
スル者ハ大痛アリ

問看法ハ如何答曰凡テコレ難治ノ病ナリ若シ大
痛ヲ兼子發シ其容變ジテ紫色ヲ見ハサントスル
者ハ最モ療シ難シ其患ヘ大血脉ニ密邇スル者ハ
コレヲ截ルヲ能ハザルガ故ニ甚ダ危候トス

問治法ハ如何答曰攝生法ヲ保持スルヲ粘液腫及
 ビ硬結腫ニ同ジ循行惡液ヲ良復シ且ツ之ヲ外泄
 セシムルヲ硬結腫及ビ蝦腫ニ同ジ外治ハ外敷ノ
 劑ヲ擇ンデ其腺ノ硬結ヲ療スベシ
 問外敷ハ何ノ劑ヲ用フベキヤ答曰後方ヲ用ヒテ
 其腺ノ硬結ヲ和軟ニスベシ其方

脂液加脂膏

十六錢

鳶尾根末

二錢

月桂油

杜松油

各適宜

右調和シ硬膏ト爲ス

又方

鳶尾伴脂

安母泥亞吉脂

各酢ヲ用ヒテ溶解シ漉メ津ヲ去リ煮テ凝固セシムル者

八錢

松瀝

十六錢

鳶尾根

月桂子

志村人參子

各二錢

盤糖霜

一錢半

硫黃

四錢

月桂油

適宜

右調和シ硬膏ト爲ス

又方

脂液加脂膏

青蛙加汞膏

各等分

右同上

右ノ劑ヲ貼ス若シ痛ミアル者ハ方内ニ阿芙蓉些許ヲ加フベシ

問前劑ヲ用ヒテ消散セズ反テ膿熟セントスル者ハイカニスルヤ荅曰猶前劑ヲ更メ換ヘズコレヲ貼ノ全ク膿熟スルヲ俟ツベシ
問此腫全ク熟スルニ至ラザレバ撥開スルヲ得

ザルヤ荅曰然リ何者此腫稠厚ナル毒ヨリ發スルガ故ニ若シ全ク熟セザルノ寸ニ披鍼或ハ腐藥ヲ用ヒテコレヲ撥開スレバ其稀膿汁ノニ漏泄メ殘餘ノ毒液善性ノ膿汁ニ和シ難クシテ屢惡性ナル玲瓏硝肉ニ變ジ膿汁無クシテ多ク水様液ヲ出スニ至ルガ故ナリコレヲ披キテ後ハ君王膏ニ部配部配日多膏一部ヲ調勻シ微吉微吉ニ塗リタルヲ以テ膿孔ヲ清潔ニス或ハ後方ヲ用フルモ亦可ナリ其方

尋常篤耨香

八錢

雞子黃

一箇

白蜜

四錢

鳶尾根

二錢

益糖霜

銅青

各一錢

右調勻シ軟膏ト為ス

又方

月桂油

定粉 活水ニテ溶
解スル者

各八錢

益糖霜

二錢

枯礬

一錢

樟腦

五分

右同上

右ノ軟膏ヲ用ヒテ患部ヲ清潔ニシテ後新肉ヲ長
 ジコレヲ愈ス_レ他ノ潰瘍ニ同ジ
 問此腫硬結スル者膿熟セス又消散ヲモセザル時
 ハ他ニ施スベキ劑ナキヤ答曰此患皮下ニ在リテ
 深カラズ且ツ大動脈靜脈神經等ニ密邇セズ病人
 老年ナラザル者ハコレヲ剪割シテ間愈ル_レアリ
 其法徽毒ニ倣ヒテ治療ヲ加フベシ

新譯和蘭内外要方卷二

霍乱吐下利并心腹疼痛者宜服此方
一服即愈若不愈者再服之
此方治霍乱吐下利并心腹疼痛者
宜服此方一服即愈若不愈者再服之



